大阪産業大学　成績評価基準のガイドライン

最終改定日　2026年 11月17日

平成 29 年 3 月の教学マネジメント委員会（現内部質保証推進委員会）で定めました大阪産業大学のアセスメント・ポリシーに基づき、開講するすべての科目について、「成績評価基準」と、成績評価基準に用いる評価項目の尺度（ルーブリック）を統一したガイドラインとして定めます。

I. 大阪産業大学　アセスメント・ポリシー

少子高齢化とそれに伴う生産年齢人口の減少、グローバル化や情報化の進展、産業構造の変化等、現代社会は複雑・多様化しています。そのような社会を力強く生き抜くことができる人材を育てるために、これからの大学教育においては、従来の「知識・理解」の教授だけではなく、論理的思考力、数量的スキル、問題解決力といった「汎用的技能」を養い、『知識・理解を活用する力』を育む必要があります。また、それとあわせて、協調性、自己管理能力、倫理観、生涯学習力といった「態度・志向性」を養い、高い『人間力』を身に付けさせる必要もあります。

本学は、様々な専攻分野の学問を教授する学部を擁していますが、先に述べた「汎用的技能」や「態度・志向性」は、学問分野を問わず、すべての学士課程修了者が身に付けるべき共通のものです。

したがって、今後の本学の学士課程教育においては、【現代社会を力強く生き抜く力】を、学生の卒業時に求める全学共通の学習成果と定め、それを支える『知識・理解を活用する力』と『人間力』の基礎となる「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」といった様々な能力を、アクティブラーニングを基軸とした新たな形態の教育によって養い、それらを適正かつ厳格に評価するための尺度（ルーブリック）を開発・運用し、教育の質保証に努めます。

II. 成績評価基準

全学的な成績評価基準は以下の通りとします。

成績評価	S（秀）	A（優）	B（良）	C（可）	D（不可）	＊
GP	4	3	2	1	0	0
適用点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	成績評価に至らない
単位	合格				不合格	

GP：Grade Point

適用点：テスト、小テスト、レポート等の点数

「＊」：一度も授業に出席していない、かつ一度も成績評価物を提出していない、かつ一度も試験・テストを受験していない場合

なお、成績評価はその他に、「T」：他校での科目を認定する場合の評価があります。

III. 評価方法

すべての授業科目について、評価項目によって成績評価を行います。評価項目は、文部科学省が参考指針として示す「学士力」(「学士課程教育の構築に向けて(答申)」(2008年))をもとに、以下の 4 項目の内、「1. 知識・理解」、「2. 汎用的技能」及び「3. 態度・志向性」について、評価の割合(評価を与える重み)を示して学生の成績を評価します。

1. 知識・理解
2. 汎用的技能
3. 態度・志向性
4. 統合的な学習経験と創造的思考力(上記 3 項目の総合的な評価項目)

(1) 手順

開講する全ての授業科目について、達成目標と評価項目を定め 、コモンルーブリックで評価します。手順は以下のとおりです。

(1) 授業の目的から達成目標を設定する。
(2) 授業の評価項目と評価手段を設定し、成績評価基準の割合(重み)を決定する。
＊評価手段:評価項目による成績評価の手段のことで、どのような観点で評価するのかを決定し、評価の根拠を求められたときに説明することができるようにしておく。
(3) 学科のシラバスチェックの後、シラバスを公開する
(4) 授業を実施する。
(5) コモンルーブリックによって評点または適用点を決定して、平均値を計算し((3)参照)、成績評価基準から成績評価(S,A,B,C,D,＊)を決定する。
(6) 成績評価の根拠となる資料は一定期間、担当教員または学科で適切に保管する。

(2) コモンルーブリック

評価項目	評点	4	3	2	1	0
	適用点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
知識・理解		知識を修得し、授業内容を理解するレベルを超えたレベルに達している。	知識を修得し、授業内容を理解する十分なレベルに達している。	知識を修得し、授業内容を理解するレベルに達している。	知識を修得し、授業内容を理解するレベルにおおよそ達している。	知識を修得し、授業内容を理解するレベルに達していない。
汎用的技能		身につける汎用的技能のレベルを超えたレベルに達している。	身につける汎用的技能のレベルに十分に達している。	身につける汎用的技能のレベルに達している。	身につける汎用的技能のレベルにおおよそ達している。	身につける汎用的技能のレベルに達していない。
態度・志向性		身につける態度・志向性のレベルを超えたレベルに達している。	身につける態度・志向性のレベルに十分に達している。	身につける態度・志向性のレベルに達している。	身につける態度・志向性のレベルにおおよそ達している。	身につける態度・志向性のレベルに達していない。

（3）成績評価方法

学生の成績評価を、評点を用いて行う場合は、以下の方法で計算します。

評点の平均値＝（「知識・理解」評点×割合（%）＋「汎用的技能」評点×割合（%）＋「態度・志向性」評点×割合（%））÷100

＊　割合の合計は 100%とします。

GP	4	3	2	1	0
評点の平均値	4.000～3.500	3.499～2.500	2.499～1.500	1.499～1.000	1.000未満

※大阪産業大学では、授業において学生がより目標を達成できるような教育の実現のため、上記3つの観点（「知識・理解」,「汎用的技能」,「態度・志向性」）による多面的な成績評価、および、小テスト・小レポートなど授業期間途中の評価を実施し、学修改善することを原則としています。

※ 本学では、補講時にのみ遠隔授業の実施を可能としています。その成績評価について、遠隔授業ではWebClassにて課題やレポート等の成果物を必ず課した上で、それを授業科目の成績評価へ反映することを要件としています。

Ⅳ.シラバス「成績評価基準・方法」への記述の具体例

「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」それぞれの評価項目について、テスト、小テスト、レポート等の評価手段を「成績評価基準・方法」に示し、その割合を示してください。

その際、学士力の3項目「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」の観点から2項目以上で評価する多面的評価の実施をお願いします。

3項目の詳細についてはⅢに記載の各専攻分野を通じて培う「学士力」－学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針－を参照してください。

＜ポイント1＞

Ⅲに記載のとおり、本学では学士力の3項目「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」の観点からの多面的な評価を原則としています。授業の目的や達成目標や履修者数による評価の負担も踏まえつつ、複数の評価項目で評価するような設計をご検討ください。

＜ポイント2＞

各評価項目の評価値を決める上では、一つの項目に複数の根拠を結びつけ授業の改善を行う形成的評価を原則としています。以下例の内訳部分の記載を参考に、一つの項目において複数の評価手段を対応づけることをご検討ください。

（例1） テスト重視型

●知識・理解　60%（内訳：テスト40%＋レポート10%＋小テスト10%）
●汎用的技能　20%（内訳：レポート20%）
●態度・志向性　20%（内訳：小レポート20%）

（例2） 汎用的技能重視型

●知識・理解　20%（内訳：テスト10%＋レポート10%）
●汎用的技能　60%（内訳：レポート30%＋グループワーク成果物30%）
●態度・志向性　20%（内訳：リフレクションペーパー10%＋グループワーク成果物10%）

（例3） 一部項目を評価しない場合

●知識・理解　70%（内訳：小テスト70%）
●汎用的技能　0%
●態度・志向性　30%（内訳：小レポート30%）

※（例1）で、レポートを知識・理解と汎用的技能の両方の評価値に反映させているように、一つの評価手段を複数の観点から成績評価に反映させることも可能です。

※（例3）で、知識・理解の項目に対して、小テストのみの評価であっても段階的に複数回実施し学修改善しているのであれば形成的評価を実施していることになります。

※ 文部科学省が全国の大学に指導しているとおり、成績評価において出席を加点・減点の対象としてはならないことにご留意ください。

※ また、授業科目として一定の条件を満たさなかった場合に「D」となる基準を設ける場合は、その基準を具体的に記載してください。

（例1）【「D」となる基準】授業を〇回以上欠席した場合
（例2）【「D」となる基準】テストを受けなかった場合
（例3）【「D」となる基準】レポートを提出しなかった場合

以上